

80歳を越えていよいよこれが最後の海外旅行かなと思いながらスペイン旅行に出かけました。スペインの人口は約4800万人、広さは50万平方キロですから、日本よりちょっと広いです。スペインの国旗はサッカーの試合でお馴染みですね。

国王はフェリペ6世で君主制です。首都はマドリッドで、経済大国スペインは観光業が経済を牽引していて意外と景気がいいそうです。これぐらいの事前勉強で、スペイン旅行に出かけましょう。

## 1日目 旅の初めに

羽田からルフトハンザ・ドイツ航空のエアバスA321・900で出発。いきなり驚きました。いつもヨーロッパ方面に出かけるのに西側に向かって行きますが、今回は東側に向かい、千島列島沖を北上し、アラスカ・カナダ・北極海上空を経て、グリーンランドからノルウェイそしてドイツのミュンヘン空港に到達します。ロシアのウクライナ進行に伴いロシア上空を通れないからだそうです。

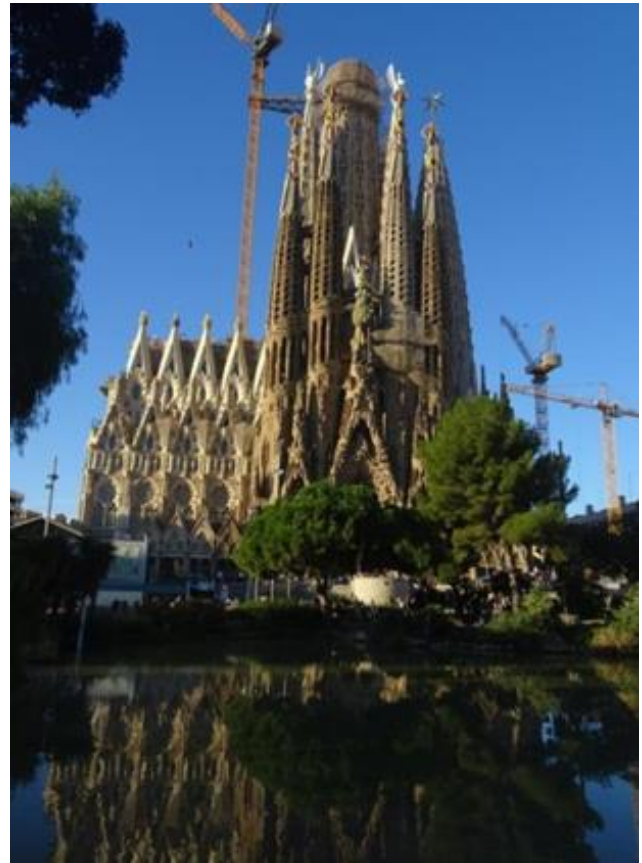
14時間20分のフライトの後、乗り換え地のミュンヘンに到着。ミュンヘンで入国審査を受けましたがドイツからスペインへの移動は域内のローカルな移動になり比較的簡単に済みました。ミュンヘンからA321・200に乗り換えて21時30分バルセロナに到着。スペインはサマータイム中だったので日本との時差は7時間です。今回の旅行はスペインを一筆書きにぐるっと一周します。



## 2日目 バルセロナ

バルセロナはピレネー山脈に近いスペイン北部、カタルーニャ地方の州都ですが、カタルーニャ州は交通の要衝として古代から栄えてきました。独自の歴史・伝統・習慣・言語を持ち、2017年にはカタルーニャ共和国として独立宣言が行われました。ただしスペイン中央政府から独立は認められていない現状です。

朝日に輝くサグラダファミリアは神々しい雰囲気には溢れていました。サグラダファミリアはもの凄く人気でなかなか中に入れない状態ですが、幸いにも教会内に入ることが出来ました。教会内のステンドグラスからの光りで神の力を実感させるようになっています。また、日本人の外尾悦郎氏が40年以上石工として彫刻をするとともに教会の重要部分の設計にあたっています。

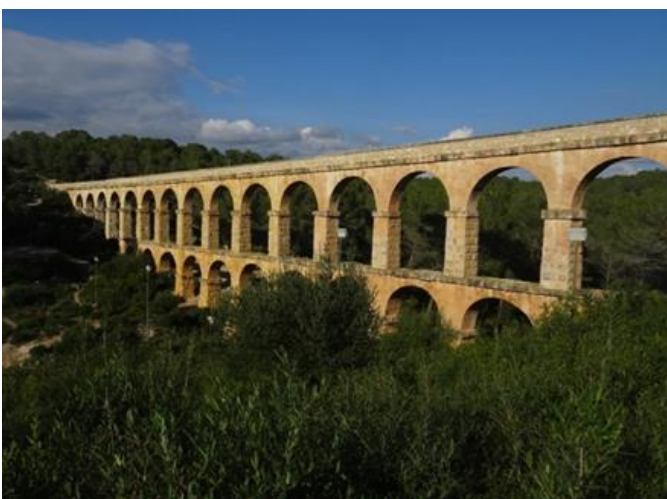


サグラダ・ファミリアは、2026年には完成すると言われていましたが、コロナや資金難や立ち退き等のため完成はまだまだ先になりそうです。

ガウディは若い頃から天才か？と言われていましたが、天才であることは時間が証明しています。晩年には工房にこもってサグラダファミリアの完成に全力を注いでいました。1926年、ミサに向かう途中段差に躓き転倒し、そこに通りかかった路面電車に轢かれ、浮浪者と間違われたため手当てが遅れ入院先の病院で死去しました。（73歳没）遺体はサグラダ・ファミリアに埋葬されています。

### タラゴナのラスファレラス水道

バルセロナから約100kmのタラゴナに世界遺産のラス・ファレラス水道橋があります。





この水道橋はタラゴナの北にあるフランコリ川からタラゴナまで水を供給するためにローマ帝国時代の西暦1世紀頃に造られた水道橋で、短い建築期間で完成したので「悪魔の橋」と呼ばれていたそうです。

## バレンシアへ

タラゴナから約4時間 約250km走ってバレンシアへ。

バレンシアオレンジの産地は実はカリフォルニアだそうですが、勿論スペインのバレンシアもオレンジの名産地です。

バレンシアは火祭りやトマト祭りなどで有名ですが、一泊のみで通過させていただきます。

## 3日目 ラ・マンチャ地方

ラマンチャはマドリードの南に広がる平原で、風が強く標高の高い地域で、アラビア語で「乾いた土地」という意味で、セルバンテスの「ドン・キホーテ」の舞台になっています。

「ドン・キホーテ」の原作は騎士道物語の読み過ぎで現実と物語の区別がつかなくなった男が、「ドン・キホーテ・デ・ラ・マンチャ」と名乗って冒険の旅に出かける物語で、1600年代の初め頃の作品です。



## グラナダのフラメンコ

約4時間30分走って地中海に面したアンダルシア地方のグラナダに到着。

ホテルでの夕食後、フラメンコショーを鑑賞し、ホテルへは深夜にお帰り。スペインは夜更かしの国だそうです。



スペインで有名なフラメンコと言えばセビリアとグラナダですが、グラナダのフラメンコはロマ（ジプシー）の踊りを基に地元の踊りが組み合わされて今に至っているということでした。

#### 4日目アルハンブラ宮殿

アルハンブラ宮殿はイベリア半島最後のイスラム王朝・ナスル朝の時代の建築とされ、初代ムハンマド1世が建築に着手し、その後のイスラムの政権下で増築されました。

アルハンブラは「赤い城」という意味でスルタン（王）の居所であるとともに、数千人が居住する城塞都市でもありました。

その後、キリスト教徒による国土回復運動（レコンキスタ）によってイスラムの建築物は壊されましたが、アルハンブラ宮殿だけがその美しさのため破壊されることなく残され、現在もスペイン屈指の世界遺産になっています。

中庭には水路が通っていますが、この水はグラナダの町を取りまくシエラネバダ山から来ているそうです。



#### ヘネラリーフェ庭園

ヘネラリーフェはアルハンブラ宮殿から歩いて行ける距離にある離宮で、美しい庭園があります。フランシスコ・タレガが1896年に作曲したギター独奏のための小作品「アルハンブラの思い出」はこのヘネラリーフェ庭園で着想したということです。



#### 白い村ミハス

ミハスはアンダルシア地方を代表する村で、この村にはローマ帝国、ムスリム支配、キリスト教徒の時代を経て、古代の遺跡が点在し、過去の面影が今も色濃く残っています。

ミハスの建物の白い壁は太陽光を反射し、アンダルシアの炎天下でも建物内部を涼しく保つ役割を果たしています。



村では旅人の期待を裏切らないよう通りに面した壁に飾る鉢植えを統一し、壁を年3回塗り替えしているそうです。

展望台から見ると海沿いに村が見えますが、コスタデルソル（太陽の海岸）で、今、ヨーロッパ中から移住希望が殺到しているそうです。たまたまこの日は雨模様でしたが、ほぼ一年中晴天なのだそうです。



### ミハスを散策後、コルドバへ

スペインのオリーブ生産は世界一で、この辺りは一面オリーブ畑だらけです。オリーブは暑さや乾燥に強く、他の植物が枯れるような日照り続きでも元気よく生き続け豊かな実を付けます。今年はヨーロッパ中、雨が降らずに困って水のケチケチ生活でしのいでいましたが、オリーブだけは元気に生き延びたそうです。

### コルドバ

コルドバはスペイン南部のアンダルシア州にあり、古代ローマ帝国の重要な都市として発展し、中世時代はイスラム王朝の主要中心都市として繁栄しました。コルドバは今もなおイスラム文化の香りが漂う魅力的な街です。グアダルキビル川にかかるローマ橋の向う正面にメスキータとその左にはアルカサル（城）が見えます。

メスキータはイスラムのモスクで850本もの柱に支えられた空間の大理石と赤レンガを組み合わせた建築美が特徴だそうです。



アルカサルはコロンブスが大陸を発見した時にカトリック王に謁見が行われた所です。レコンキスタで街を奪還したキリスト教徒が、その美しさを認め、そのまま残したそうでイスラム建築とカトリ

ツクの建築が共存しています。

鐘楼はいつも町中から見えますが、細道は迷いやすくなっています。

## コルドバからマドリッドへ

AVE高速鉄道に2時間乗ってマドリッドへ移動しました。

AVEはスペイン高速鉄道の略称であると同時に鳥を意味し翼を広げた鳥が列車のシンボルマークになっています。時速250キロくらいで運行していました。

車外からは雨のオリーブ畑が見えましたが、これもまた恵みの雨と言う所でしょう。



## マドリッド

マドリッドはスペインの首都で、人口は約325万人、EU内においてパリに次ぐ規模の大都市でおしゃれな街です。

20世紀前半まで代々のスペイン国王が暮らしてきたマドリッド王宮は今でもスペイン国王の公式の宮殿で、現在は公的な行事の際に使用されています。

宮殿前には17世紀のスペイン国王フェリペ4世の騎馬像があり、この騎馬像を制作するのにベラスケスや、ガリレオ・ガリレイも関わったそうです。





まだ10月というのにもうクリスマスイルミネーションの準備をしています。



国立ソフィア王妃芸術センターでピカソの「ゲルニカ」が展示されています。「ゲルニカ」は、1937年に完成したパブロ・ピカソによる壁画サイズの油彩作品で、スペイン市民戦争に介入したナチスドイツやイタリア軍が、スペイン・バスク地方にあるゲルニカ村を無差別爆撃した時の出来事を主題とした作品です。ちょっと端っこが切れてしまいましたが、3・5m x 7・8mのゲルニカを撮影しました。



この他にもダリ、ミロなどもの作品が集められています。詳しいことは分かりませんが写真を撮ってきました。もう少し勉強してから行くべきだったです。

国立ソフィア王妃芸術センターからプラド美術館まで緑豊かな美術館通りまで歩いて行きました。プラド美術館前にはとベラスケスとゴヤの銅像がありました。プラド美術館の所蔵作品は、ゴヤの「裸のマハ」「着衣のマハ」をはじめとして絵画8600点、彫刻700点以上もあるそうです。残念ながら写真撮影禁止でしたが、満員の盛況だったので、写真撮影を許可していたら大渋滞で進めない所でした。



## トレドへ

マドリッドから約1時間走って世界遺産の街トレドへ行きました。古都トレドはスペイン中部の丘の上にある古都です。

州都として栄えるこの城塞都市は、中世時代に建てられたイスラム教、ユダヤ教、キリスト教の歴史的建造物で知られており、町全体が世界遺産になっています。

エル・グレコの名画が残るサント・トメ教会を訪れます。



エル・グレコ（1541～1614）は、トレドで活動した画家ですが、ギリシア人でクレタ島の生まれで、ヴェネツィアで絵画修行をしました。ローマでルネサンスの影響を受け、スペインに渡りトレドに定住して制作活動を行いました。

トレドのサント・トメ教会にエル・グレコの最高傑作と言われる「オルガス伯の埋葬」があります。

オルガス伯は信心深い篤志家で、正義感に満ちた騎士であり、サント・トメ教会の拡張、内装のために多額の遺産を残した人でした。





## 第7・8日目 帰国

7時25分発ルフトハンザ・ドイツ航空でマドリッドからミュンヘンへ。  
乗り換え後、ヨーロッパ・ジョージア・トルコ・インド・中国・韓国の南ルートで12時間20分、無事羽田に到着しました。

## 旅の終わりに

私達がスペイン旅行から帰ったのは10月29日、その同じ日にバレンシア州で集中豪雨による洪水が発生した。200人以上が死亡、数十人が行方不明で、死者数がさらに増える恐れがあり、今世紀最悪の洪水だそうです。

私達がバレンシアを通過した10月23日頃は晴天続きで、スペインの人達は雨の降るのを待っていました。私達は晴天続きの旅を楽しんでいましたが、まさかこんなことになるとは思っても出来ませんでした。

被災された皆様にお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧を願っています。